

第1回大刀洗町自分ごと化会議 議事要旨

日時	2021年10月30日(土) 13時00分から16時00分
場所	大刀洗町役場3階大会議室
会議参加者	出席者数21名(欠席者数3名)
大刀洗町	町長、副町長、教育長 事務局：総務課 説明担当課：住民課
コーディネーター	荒井英明(神奈川県工業内陸団地事務局長、構想日本特別研究員)

概要

1. 開催挨拶

- (1) 町長より挨拶
- (2) コーディネーターより挨拶

2. 全体説明

- (1) 「自分ごと化会議」とは？ 全体の流れと進め方の説明(コーディネーター)
- (2) テーマ「ごみを減らすために、わたしにできること」選定の理由(総務課)
- (3) 大刀洗町のごみ事情(住民課)

3. 協議

- (1) 自己紹介
- (2) これからの協議のポイント
- (3) ごみを減らすために個人でやっていること
- (4) ごみの分別や減量に取組めない理由・ごみ減量の課題

4. 事務連絡

会議内容

1. 開催挨拶

(1) 町長より挨拶

- 「大刀洗町住民協議会(自分ごと化会議)」は、これまで7年間開催し続け、計239人の住民にご参加いただいている。OB・OG会も発足しており、自立的にご活動いただいている。町のことを自分ごととして考えていただける方が増えていくと、より良い町になっていくと思う。
- 今回の会議テーマは「ごみ問題」だ。平成26年度にも1度テーマにした。大刀洗町では、これまでごみ減量に向けて色々な取組みを行っているが、ごみの搬入量は年々増加傾向にある。これまで以上に住民のみなさまのご協力が必要だ。
- 会議の中では、素朴な疑問、率直なご意見、ごみの減量に向けたアイデアを遠慮なくご発言いただきたい。この会議が、みなさま一人一人が地域に関心を持って考え、行動に踏み出すきっかけになればと思っている。

(2) コーディネーターより挨拶

- 事業仕分けを実施したときから 12 年間にわたって大刀洗町と関わっている。住民の方々とお話をしている中で、住民のみなさまが広い心を持っている町だと感じている。
住民の中には、生まれたときから大刀洗町に住んでいる方もいれば、新たに移り住んで来た方もいる。さまざまな立場の方がいる。参加者のみなさまには、他の方の意見も聞きながら、大刀洗町をより良い町、より住みやすい町にするために自分ごととして考え、意見を出していただきたい。よろしくをお願いします。

2. 全体説明

(1) 「自分ごと化会議」とは？ 全体の流れと進め方の説明

コーディネーターから、資料に基づき説明。

- 行政・まちづくりへの市民参加の会議は、以前は公募方式や推薦方式が多かった。
大刀洗町では、これまで行政と接点の少なかった人、参加を躊躇していた人の参加を促すため「無作為抽出」という方法を使い、自分ごと化会議（住民協議会）を始めた。
2014 年の開始当時、大刀洗町が採用したこのやり方は先進的であり、その後全国に広がっている。
- 自分ごと化会議は、身近な問題を行政任せにせず、住民自らが行政の取り組みについて考え、意見を出し合って課題解決を目指すことを目的にしている。
【特徴】
 - 参加する住民の選び方が無作為抽出
 - 地域の課題について、生活から見える現象をもとに住民間で議論
 - 「自分ごと」で考え「個人でできること」「地域でできること」から考える
- 会議でテーマに関する意見交換を行い、最終的に課題とその解決方法（個人、地域、行政、民間のそれぞれでできること）を取りまとめ、提案書として町に提出する。
- 自分ごと化会議の応募率は、全国平均 3.9%（中央値 3.2%）だが、大刀洗町は昨年度 8%、今年度 5% だった。住民の参加意識が高い。
- これまでに大刀洗町で自分ごと化会議（住民協議会）に参加した住民は 239 人で、OB・OG会も発足している。2018 年には、OB・OG会が町議会議員を招待するという、これまでに見られなかった構図の会議も開催された。

※説明内容の詳細は、別紙会議資料をご覧ください。

(2) テーマ「ごみを減らすために、わたしにできること」選定の理由（総務課）

総務課から説明。

- 近年、大刀洗町のごみ量は増加傾向にあり、ごみの処理方法について検討する必要がある。
- 「ごみ」は住民のみなさんの生活に直接的に関わりのあること。
より良い町にするために、自分ごと化会議を通じて、自分ができること、地域としてできること、行政ができることをお考えいただき、意見を出し合っていたきたい。

(3) 大刀洗町のごみ事情（住民課）

住民課から、資料に基づき説明。

- 大刀洗町のごみの量
 - ごみの総量は年々増加傾向にあるが、資源ごみの量は減少傾向にある。
 - ・ 搬入ごみの量 2018年：3569 t → 2019年：3729 t → 2020年：3800 t
 - ・ 資源ごみの量 2018年：461 t → 2019年：442 t → 2020年：410 t
- 大刀洗町のごみ処理費用
 - ごみ袋作成費等（1,600万円）＋収集運搬費（約1億円）＋処理経費（約1.7億円）＝合計で約2.9億円。
- 大刀洗町のごみの分別方法
 - 燃えるごみ、資源・不燃物ごみ、紙・布、廃食用油、プラスチックに分けている。
 - リサイクルするためにも分別が重要。
- 大刀洗町の行政の取組みと課題（ごみの出し方の改善と啓発）
 - ごみの分別を徹底する。
 - リサイクル品の洗浄・乾燥の徹底をはかる。
 - 生ごみの水切りの徹底、堆肥化をはかる。
 - 気軽に資源ごみが出せないか検討する。
 - ご近所の声かけ等住民・地域・行政の協働により3R＋C活動を推進する。
- 「3R＋C」とは
 - リデュース（Reduce）：ごみを減らす
 - リユース（Reuse）：繰り返し使う
 - リサイクル（Recycle）：再生利用する
 - コミュニティ（Community）：つながる（互助・共助）
- 「ごみ減量」により期待する効果
 - ごみ処理費の削減（町・個人）
 - ごみのリサイクル（循環型社会）
 - 環境保全（地球温暖化防止）
 - 地域コミュニティの活性化

※説明内容の詳細は、別紙会議資料をご覧ください。

2. 協議

(1) 自己紹介

コ：協議を始める前に、みなさまが現状で行政とどれほど関わりを持っているか、簡単な質問をする。緊張をほぐしていただければと思う。

- 大刀洗町は良い町か？
 - 参加者回答【良い町だと思う：5割 普通：4割 課題がある：1割】
- 広報紙は読んでいるか？
 - 参加者回答【いつも読む：4割 ときどき読む：5割 読まない：1割】
- 役場にどれくらいの頻度で来るか？
 - 参加者回答【月に1度：2割 年に1度：4割 ほとんど来ない：4割】

コ：次に、自己紹介を兼ねて、大刀洗町について思っていることを以下のとおりにご発言いただきたい。

【①住み始めてからの年数、②大刀洗町の良い点、③大刀洗町の抱える課題、④休日の過ごし方、⑤好きなこと・もの】

- ①住み始めてからの年数
 - ・ 1年未満：1人
 - ・ 1～10年：5人
 - ・ 11～20年：4人
 - ・ 21～30年：4人
 - ・ 31～40年：2人
 - ・ 41～50年：0人
 - ・ 51～60年：1人
 - ・ 60年以上：3人
- ②大刀洗町の良い点
 - ・ 住みやすい。
 - ・ 自然豊か（空気が良い。高いビルが無く景色や星空がきれい、四季を感じられる）。
 - ・ 都会すぎず、田舎すぎない。
 - ・ 静か、のどか。
 - ・ 野菜が豊富。
 - ・ 高速道路があり、久留米や筑紫野方面へのアクセスが良い。
 - ・ 子育てしやすい（子育て支援が充実、保育料が安い、保育園が多い、公園が広い）。
 - ・ 教育面がしっかりしている（発達障害支援クラスの支援も手厚い）。
- ③大刀洗町の抱える課題
 - ・ アパートや住宅が建っているのに、なぜか人口が増えない。
 - ・ 道の駅などの物産館が無い。
 - ・ 駅に駐車場が無い。
 - ・ 障害者や要介護者に対するサポート・介護者が不足している面がある。
 - ・ 大刀洗川がよく氾濫することが不安。

- ・車が無いと移動が不便（バスが無い。鉄道はローカル線で、主要本線が通っていない）。
- ・子どもの遊び場が少ない。
- ・無秩序に住宅が建っている。
- ・空き家は多いが、買える土地が少ない・貸してもらうことも難しい。
- ・車通りが多いが、通学路・歩道が狭い。
- ・道路事情が悪い（自転車で通学中、道路や歩道に段差があって転倒したことがあった）。

● ④休日の過ごし方

- ・家事（家事全般、庭の掃除、木の枝の剪定など）。
- ・畑仕事。
- ・子育て。
- ・趣味（散歩・ウォーキング、ゴルフ、自転車）。
- ・地域活動（子ども会、少年野球の指導）。
- ・英会話。
- ・大学受験の勉強。

● ⑤好きなこと・好きなもの

- ・動画編集。
- ・旅行と鉄道。
- ・野球。
- ・映画、本など。
- ・果物（梨、柿など）。
- ・野菜全般。
- ・ビュッフェ。
- ・甘いものを食べること。
- ・和菓子。
- ・孫と遊ぶこと。
- ・晩酌。
- ・海のもの（特にアジ）が好き。
- ・子育てが落ち着いたら好きなことを始めたい。
- ・いろいろやりたいことがあるが、受験のため我慢している。

コ：住み始めたばかりの方から60年以上住んでいる方まで色々な方に参加していただいている。年代・好きなことも様々な意見が集まった。

大刀洗町の良い点と課題については、良い点として「自然が豊か」という意見が多い反面、「鉄道や高速道路は通っているが、車を持っていないと交通の便が悪い」という表裏一体の意見が多かった。

（2）これからの協議のポイント

コ：住民課からのごみ事情の説明の中で、「3R+C」という言葉があった。今年度の自分ごと化会議の中では、この「+C」の部分（コミュニティ）の視点を持って考えていきたい。今回はごみ問題がテーマだが、子育て、介護、高齢者福祉、防災など、別のテーマであっても同様の視点は重要だ。自己紹介の中で大刀洗町の良い点に「子育てが充実している」という意見があった。例えば子育てに

関する取組みに「+C」の視点を加えて、より良いものにできるかも知れない。

これからの協議の中では、地域コミュニティにどう活かせるかということのポイントにしながら、自分たちが地域でどんなことを出来るかを考えていきたい。

意見があればぜひ手を挙げて発言していただきたい。

(3) ごみを減らすために個人でやっていること

- 少しでもごみを減らせればと思って段ボールコンポストをやっている。それまで生ごみは可燃物として廃棄していた。今3か月目にして15kgほどを投入している。最初は少し臭いがあった。
- 庭に深めの穴を掘って、生ごみを少しずつ入れている。
風呂やストーブで薪(焚き木)として新聞紙等を使うことがある。近所から不要な木を薪として頂いたりもしている。
- 特別何かをしているというわけではないが、食材ロスが無いように、使い切れる量を購入し、必ず使い切るよう心掛けている。
- エコバッグを使ったり、学校や家で余った裏紙を活用して自作ノートを作って、自宅での勉強に使っている。
- 分別に気をつけている。その中で、プラごみが非常に多く出ることを実感している。

コ：大刀洗町のプラごみの分別は進んでいるのか？まだ進んでいるとは言えないか？

担：進んでいる方だと認識している。最近はプラマークの無いプラごみの分別も試験的に行っている。

(4) ごみの分別や減量に取り組めない理由・ごみ減量の課題

コ：ごみの減量や分別にあまり取組めていない方目線の意見を伺いたい。どういう理由があるのか考えたい。

- 引っ越して来た時、ごみカレンダー・分別方法を受けとったときに、すごくわかりやすいと感じた。そのため当初はしっかりやっていた。しかし、資源ごみを地域集積所へ出せるタイミングは月に1度に限られているので、自身の生活時間の都合上、正確に細かく分別することができていない。
- 集積所以外にも、イオンにも缶・ペットボトルや、段ボールを持ち込める。だがこちらも時間や曜日が限られている。
ごみを保管しておけるスペースが自宅敷地内になかったり、仕事や子育ての生活事情により、タイミングが合わないことから、しっかりとした分別をあきらめてしまう人も多いのではないか。
- 私自身はしっかりと分別をしているが、分別できない人のことを考えてみると、現代の生活では、ペットボトルやプラ容器などのごみはかなりの量になる。集合住宅に住んでいる家庭などは、指定日まで保管する場所が無く、結果分別をしても置く場所がなくて、収集のタイミングが少ない資源ごみの分別ができていないのではないか。

私の住んでいる地域では、集積所の管理は区長がしているが、他市町村・他地域では当番制で地域の中で連携をとっているところもある。

コ：特定の方が集積所の管理をしているとの話があった。

特定の方だけがやるのではなく、時間のある人が、時間のあるときに協力できる「+C」が必要なのではないか。次回、より深く考えていきたい。

- 「食材ロスに気をつけて買い物をしている」という方がいた。私も気をつけているのだが、ついつい買い過ぎてしまうことがある。まだまだ意識が足りていないのかも知れない。

コ：生活をする上で買い物をすることは避けられない。スーパーやコンビニの買い物袋や、ネット通販の段ボールなど、買い物とごみが出ることはセットになっている。

- 資源ごみの回収周期は月に1度ではあるが、私は家族で協力して、行ける人が集積所へ持って行くように声をかけあっているので、我が家ではそこまで負担ではない。

ごみの減量のためには、1人1人が「無駄な買い物をしない」ということを意識することが重要だと思う。

- 例えば家電を買ったときに、自分が出すごみを減らすために、中身だけを持って帰ることがある。自分のごみは減っているが家電量販店のごみは増えている。これでは社会全体で考えると減ってはいないということになる。

コ：自分ひとりのことだけではなく、社会全体のことを考えながら、「3R+C」を意識することが重要だという重要な意見だ。

- 外に保管していたごみ袋を、車に乗せて集積所へ持って行く。外で保管している間にごみ袋が汚れていく。この状態で車に乗せることにも抵抗がある。1か月の期間が空いてしまうのは厳しい。

- 私の家庭には子どもが多く、すぐにペットボトルごみがいっぱいになる。地域の集積所ではなく、飲料メーカーの回収に持って行っている。

- 普段ごみについて語ることは無い。なぜごみが増えてはいけないのか？ごみを出した後はどうなっているのか？ということを考えている人はそこまで多くないのだと思う。自分も、「金を出しているのだから良いじゃないか」という思いが少しはある。この会議は良い機会だと思う。

コ：「なぜごみが増えてはいけないのか？」は、3Rの前段階にある重要な考え方だと思う。

「なぜごみを減らさなければならないのか？」と「なぜ3Rが必要なのか？」を考えたい。住民課は、次回の会議に向け、このことに関する説明資料を準備いただきたい。

コ：「大刀洗町のごみ事情にはどんな課題があり、どうしたらその課題を解決できるのか？」を、次回はより具体的に話し合いたい。

参加者のみなさまには、自分ごと化会議に参加したことをきっかけにいただき、分別や減量に取り組んでいただきたいと思います。

また、今日説明があったことと、みんなで話し合ったことを、家族・友人・職場など周囲に広めつつ、

「どうしたらごみを減らせるか？」「どうしたら分別に取り組めるのか？」を相談してみたい。

次の会議では、ご自身の意見と周囲と相談した結果を発言していただきたい。

